

白木陣屋跡 「白木さん一万石」

石川総長は、膳所藩七万石の藩主石川忠総の三男として生まれ、忠総の死後七万石の内一万石分として伊勢国神戸藩を授けられました。総長は万治3年(1800)に大阪城番に任命され、神戸藩に加えて河内国石川郡内に一万石を与えられました。

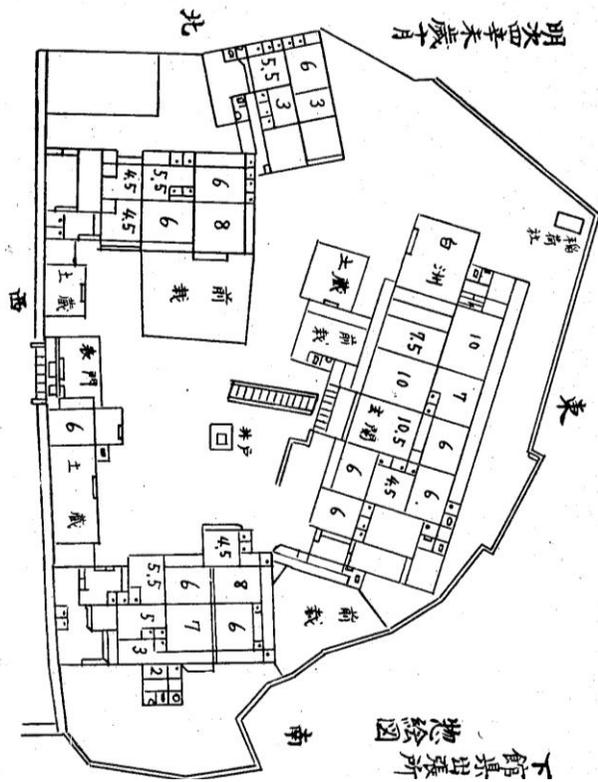
寛文元年(1800)に白木北側の高台に役所(白木陣屋)を築き、領主に代わって代官がこの地を治めることとなりました。石川氏は総長の孫、総茂の代に常陸国下館藩に移されましたが、河内の領地はそのまま残り、幕末までこの役所は使用されました。



石垣(②から)



陣屋跡地(①から)

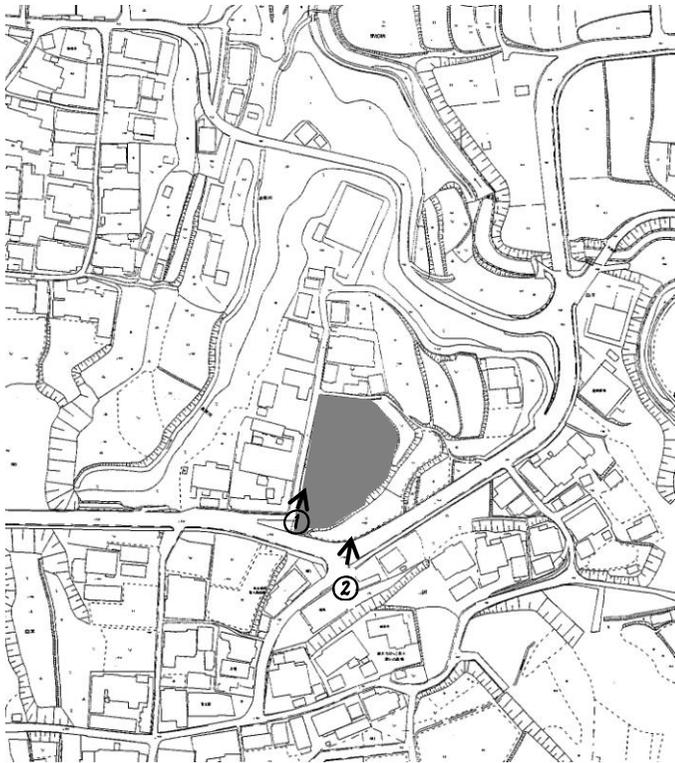


陣屋惣絵図(『白木村誌』より)

陣屋は、絵図をみると多くの建物や蔵が並ぶ立派なものであったことがわかります。建物は、明治の初めに売り払われ、周囲の石垣と千早赤阪村吉年に移築された門に当時の面影を残すだけになりました。陣屋の敷地はしばらく郷学校として使用されましたが、現在はすっかり開墾され畑となっています。



門(千早赤阪村吉年)



周辺地図(塗りつぶし部分:右の絵図の範囲)